

基調講演者 Keynote Speaker



■ ティム・ライト

Tim Wright, Treaty Coordinator, International Campaign to Abolish Nuclear Weapons / Australia

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)条約コーディネーター。1985年、オーストラリア・メルボルン郊外ジーログ出身。子どもの頃から毎年、折り鶴を折って広島に届ける活動に参加したのをきっかけに核兵器問題への関心を寄せる。メルボルン大で国際関係学と法律を専攻していた2006年、同国発祥の国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)創設に加わる。ICANの中心メンバーとして核兵器禁止条約(TPNW)の実現を目指すキャンペーンを展開し、昨年12月のノーベル平和賞受賞式に参列。現在は各国に条約の批准や発効促進を求める世界規模の活動をとりまとめる。

パネリスト Panelists



■ 遠藤 誠治

Seiji Endo, Professor, Faculty of Law, Seikei University

成蹊大学法学部教授。1962年滋賀県生まれ。88年東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了。東京大学法学部助手、成蹊大学法学部専任講師を経て、2001年より現職。専門は国際政治学・平和研究。主要編著書に『グローバル・ポリティクス——世界の再構造化と新しい政治学』(有信堂、2000年)、『グローバル対話社会——力の秩序を超えて』(明石書店、2007年)、『普天間基地問題から何が見えてきたか』(岩波書店、2010年)、『シリーズ日本の安全保障』全8巻(岩波書店、2014-2015年)など。訳書にスティーヴン・ギル著『地球政治の再構築——日米欧関係と世界秩序』(朝日新聞社、1996年)など。



■ 鈴木 達治郎

Tatsujiro Suzuki, Director, Professor, Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University (RECNA)

長崎大学核兵器廃絶研究センター長・教授。1951年大阪生まれ。75年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学(MIT)プログラム修士修了。工学博士(東京大学)。専門は原子力政策、科学技術社会論。MITエネルギー環境政策研究センター、同国際問題研究センターなどを経て、2015年4月より現職。国際核物質専門家パネル(IPFM)共同議長、核廃絶を目的とする科学者グループ「バグウォッシュ会議」評議員。主要編著書に『核兵器と原発』(講談社現代新書、2017年)、『核の脅威にどう対処すべきか：北東アジアの非核化と安全保障』(鈴木達治郎、広瀬訓、藤原帰一編著、法律文化社、2018年、RECNA叢書3号)など。



■ 金崎 由美

Yumi Kanazaki, Staff Writer, Hiroshima Peace Media Center, The Chugoku Shimbun

中国新聞記者。1970年生まれ。北海道出身。北海道法学部卒。95年に入社し岩国総局、東京支社編集部、論説委員室などを経て2014年から編集局ヒロシマ平和メディアセンター。被爆65年と70年の企画連載、2010年核拡散防止条約(NPT)再検討会議、オバマ米大統領広島訪問などを日米両国で取材。連載「グレーズン 低線量被曝の影響」で2017年科学ジャーナリスト大賞を共同受賞。



■ 孫 賢鎮

Hyun Jin Son, Associate Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University

広島市立大学広島平和研究所准教授。1971年、韓国釜山市生まれ。2006年、神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(公共関係法)。韓国統一部事務官(北朝鮮人権、拉致問題担当)、韓国法制研究院研究員を経て、14年4月、広島平和研究所に着任。専門は国際法、北朝鮮問題。共著に『なぜ核はなくならないのかII』(法律文化社、2016年)、『核の威嚇にどう対処すべきか——北東アジアの非核化と安全保障』(法律文化社、2018年)、論文に「朝鮮半島情勢——北朝鮮のミサイル開発」(HPI研究報告書、2017年)などがある。

ヒロシマからの発言 Messages from an A-bomb Survivor and a Hiroshima Youth



■ 岡田 恵美子

Emiko Okada, A-bomb Survivor

被爆者。1937年生まれ。8歳の時に爆心地から2.8キロの自宅(広島市東区)で被爆。米国やインドなど国内外で体験証言。2年前のノーベル平和賞受賞式に被爆者として招かれ参列。広島市の「被爆体験伝承者」養成事業講師。



■ 瀬戸 麻由

Mayu Seto, Singer Songwriter

シンガーソングライター。1991年生まれ。呉市出身。早稲田大学の学生だった2013年、被爆者と共にNGOピースボート「証言の航海」で世界を一周し外務省委嘱のユース非核特使も務めた。広島市中区のカフェ「ハチドリ舎」スタッフ。

モデレーター Moderator



■ 直野 章子

Akiko Naono, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University

広島市立大学広島平和研究所教授。兵庫県西宮市出身。1994年にアメリカン大学(米国)を卒業後、95年、同大学で広島市と原爆展を開催。カリフォルニア大学大学院サンタクルーズ校に進学し、2002年に社会学博士号取得。日本学術振興会特別研究員(PD)を経て05年から九州大学大学院比較社会文化研究院准教授を務めた後、16年10月、広島平和研究所に着任。単著に『ヒロシマ・アメリカ』(淡水社、1997年、第3回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞)、『原爆の絵と出会う』(岩波書店、2004年)、『被ばくと補償』(平凡社、2011年)、『原爆体験と戦後日本』(岩波書店、2015年)などがある。

■ お問い合わせ先

広島市立大学広島平和研究所

TEL: (082)830-1811 FAX: (082)830-1812

Eメール: office-peace@m.hiroshima-cu.ac.jp



※お車でのご来場はご遠慮ください。